

昭和53年度社会福祉助成を実施

安田火災記念財団は、本年度事業の一環として全国19社会福祉団体に総額1533.1万円の助成を実施しました。去る10月31日、本社ビルで日本盲人職能開発センター（所長松井氏）に対する贈呈式が行われ、三好理事長を代行して安井副理事長から助成金が贈呈されたのを皮切りに、11月上旬に全国12県で安田火災各支店長が代行し

て助成金の贈呈を行ないました。昨年度（12団体に総額808万円を助成）に次いで2回目です。

別掲は、11月1日付の『日本保険新聞』です。その他『中部読売新聞』（11月9日）『中日新聞』（11月9日）『中部経済新聞』（11月9日）『鹿兒島新聞』（11月9日）『南日本新聞』（11月9日）『愛媛新聞』（11月8日）『高知新聞』（11月11日）、『伊勢新聞』（11月8日）その他業界紙などにも掲載されました（11月30日現在、広報課受信分のみ）。



三好理事長

19団体に千五百余万

安田火災記念財団
53年度の社会福祉助成



日本盲人職能開発センターの松井所長に助成金を手渡す安田火災記念財団の安井副理事長（左）

安田火災記念財団（三好武夫理事長）は、このほど、同財団の五十三年度事業の一環として全国十九社会福祉団体に総額千五百三十三万一千円を社会福祉助成を決定した。今回助成する十九団体は、都道府県・全国社会福祉協議会のルートによって推せんされた三十六案件から同財団選考委員会が選出したもので、東京の「日本盲人職能開発センター」（在宅盲婦人の料理指導のための声のテキスト発行事業）に対する助成金の贈呈式は、十月三十一日午後一時から安田火災本社ビルで行なわれ、東京都以外の十八団体の一つは、その地域の安田火災支店長が十一月上旬に贈呈することになっている。	助成は五十二年度（十団体に総額八百八万円）に次いで二回目。五十三年度の助成団体は次のとおり。
〇川崎町社会福祉協議会（宮城県）一〇〇万円	〇日本盲人職能開発センター（東京都）九十五万円
〇ハスの実の家（福岡県）六〇万円	〇重度障害者と共に歩む太陽の会（岐阜県）一〇〇万円
〇豊川市社会福祉協議会（愛知県）七六・七万円	〇日本筋ジストロフィー協会（三重県）一・一万円
〇三重県聴覚障害者団体連合会（三重県）一〇〇万円	〇にっこり共働作業所（滋賀県）九〇万円
〇あらくさ共働作業所（滋賀県）一〇〇万円	〇おおや共同作業所（兵庫県）一〇〇万円
〇伊丹市社会福祉協議会（兵庫県）一〇〇万円	〇兵庫県聴覚障害者連合会（兵庫県）一〇〇万円
〇たつの共同作業所（和歌山県）一〇〇万円	〇希望の広場（広島県）一〇〇万円
〇四国電力ともしび会・えためボランティア（愛媛県）六〇万円	〇すずめ福祉会高知恵（高知県）一〇〇万円
〇鹿児島県障害者問題研究会（鹿児島県）一〇〇万円	〇名古屋をつなぐ親の会（愛知県）五〇万円
〇神大病院看護ボランティア（兵庫県）五〇万円	

第4回講演会を開催

去る11月9日（木）午後3時30分から本社ビル2階大会議室で、安田火災記念財団主催の第4回講演会が約2時間半にわたって行われ、損保関係者等約200名が熱心に聴講しました。今回は、石田満上智大学教授が「自動車保険の法律上の問題」と題して、自動車保険の変遷・

現状・将来の見通し等について述べられ、また鴻巣夫東京大学教授が「保険と共済」と題して、保険と共済の法律上の問題、保険と共済の契約の異同、共済契約取扱いの今後あるべき方向等について講演されました。

この講演会は、同財団がその事業の1つである社会福祉諸科学事業の一環として開催したもので、講演内容は同財団が追って発行する刊行物に収録されることになっています。

「モニック・グルゴー展」開催される

本社ビル42階の東郷青児美術館では、本年度の秋季特別展として、外務省・文化庁・フランス大使館・安田火災海上後援のもとで、11月14日から「モニック・グルゴー展」を開催し、好評裡に12月1日終了しました。

グルゴー夫人は1934年パリで生まれ、サロン・ドートンヌ会長のマック・アヴォイ氏に絵を学びました。サロン・ドートンヌ名誉会員であった故東郷青児画伯は、夫人の神秘的、幻想的な画風に魅せられ、東郷青児美術館での展覧会を約束されており、日仏の多くの人々の善意と努力によって開催されたものです。今回は夫人の最新作28点を美術館内に展覧し、円熟した筆致は非常に賞讃を博しました。

11月13日の特別観覧日には後援の関係官庁、美術界、報道関係等の方々が多数来館され、レセプションが催されました。長谷川美術館々長の開会の辞に続き、岡本常務取締役とグルゴー男爵の挨拶があり、東郷たまみさん

が祝辞を述べ、祝宴に移り、歓談しました。

また、11月15日にはテレビ朝日の「溝口モーニングショー」に、グルゴー夫妻、長谷川美術館々長が、栗原玲児氏の司会で出演し、作品の解説、グルゴー夫人の私生活等の話題で充実した番組を放映し、東郷青児美術館の存在を広く紹介しました。



会場は国際色豊でかした